

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医・歯((医b・(歯・口)A-2)1年))

福田, スティーブ・利久・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 これから大学生活で継続的に英語学習ができるように、効果的な自律学習の「What?」「How?」「Why?」を理解する。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」に、「基盤形成科目」とは基本的な思考法や言語運用能力を身に付け、自律的学習の基盤を形成することを目的としている。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付ける目的がある。英語学習に終わりはないことを念頭に置いて、授業外・講義終了後でも、学習を続けられる「やる気」と「ノウハウ」を身につけていく。多くの学生は今まで試験勉強や先生に決められた目標を基に学習に励んできたが、これからは「自分のため」のやる気と目標を基に学習をしていきたい。いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれないので、講義の前半は数多くのコミュニケーション活動と英語学習に関する講義を通し、徐々に教員主導の授業から学生主導の授業に進みたい。後半は学生個人が決めたテーマ(例えば:Speaking 活動, Writing 活動, TOEIC 学習等)で自律学習を試行錯誤しながら講義の目的に近づきたい。

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【到達目標】 ①実践的なコミュニケーションで英語を練習し、英語コミュニケーションに慣れる。②自律英語学習のスキルを知り、大学生活で継続かつ効果的に学習ができるようになる。③英語に対する自信・やる気・自主性を向上させる。

【授業の計画】

1. 英語学習の固定観念を捨てる。
2. 英語で「できる・できない」ことを考える。
3. 英語学習の将来像を考える。
4. 自分の学習スタイルを探る。
5. これからの学習を考える。
6. 学習プランを作成する。
7. 学習プランに適した教材を選択する。
8. 学習プランを実行する。

9. 学習プランを実行する。
10. 学習プランを実行する。
11. 学習プランを見直す。
12. 学習プランを実行する。
13. 学習プランを実行する。
14. 学習プランを実行する。
15. 学習プランを振り返る。
16. これからの学習を考える。

【教科書】 Sakata, H., & Fukuda, S. (2010). Learning How to Learn: A Worksheet for Autonomous Learning. University of Tokushima: Seikyo.

【参考書等】 マルカム S. ノールズ. (著). 渡辺洋子. (翻訳). 2005年. 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ. 明石書店. ISBN:475032163X.

【成績評価の方法】 30%学習プラン, 30%学習プランの実行, 40%宿題

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 ①再履修者は他のシラバスになるので、第1回目の授業までに連絡をして下さい。②この講義は坂田浩先生の「総科1基盤英語」(水, 1・2限)と同じ内容ですので、重ねて履修しないで下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220826>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1号館2階2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもE-mailで時間を合わせましょう。)

English

Basic English

(医・歯((医b・(歯・口)A-2)1年))

Steve Fukuda・Toshihisa・ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF SOCIO-ARTS AND SCIENCES

1 unit 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

Target) これから大学生活で継続的に英語学習ができるように、効果的な自律学習の「What?」「How?」「Why?」を理解する。

Outline) 「学びのファーストステップ」に、「基盤形成科目」とは基本的な思考法や言語運用能力を身に付け、自律学習の基盤を形成することを目的としている。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付ける目的がある。英語学習に終わりはないことを念頭に置いて、授業外・講義終了後でも、学習を続けられる「やる気」と「ノウハウ」を身につけていく。多くの学生は今まで試験勉強や先生に決められた目標を基に学習に励んできたが、これからは「自分のため」のやる気と目標を基に学習をしていきたい。いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれないので、講義の前半は数多くのコミュニケーション活動と英語学習に関する講義を通し、徐々に教員主導の授業から学生主導の授業に進みたい。後半は学生個人が決めたテーマ(例えば:Speaking活動, Writing活動, TOEIC学習等)で自律学習を試行錯誤しながら講義の目的に近づきたい。

Keyword) [キーワード]

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Goal) ①実践的なコミュニケーションで英語を練習し、英語コミュニケーションに慣れる。②自律英語学習のスキルを知り、大学生活で継続的かつ効果的に学習ができるようになる。③英語に対する自信・やる気・自主性を向上させる。

Schedule)

1. 英語学習の固定観念を捨てる。
2. 英語で「できる・できない」ことを考える。
3. 英語学習の将来像を考える。
4. 自分の学習スタイルを探る。
5. これからの学習を考える。
6. 学習プランを作成する。
7. 学習プランに適した教材を選択する。
8. 学習プランを実行する。

9. 学習プランを実行する。
10. 学習プランを実行する。
11. 学習プランを見直す。
12. 学習プランを実行する。
13. 学習プランを実行する。
14. 学習プランを実行する。
15. 学習プランを振り返る。
16. これからの学習を考える。

Textbook) Sakata, H., & Fukuda, S. (2010). Learning How to Learn: A Worksheet for Autonomous Learning. University of Tokushima: Seikyo.

Reference) マルカム S. ノールズ. (著). 渡辺洋子. (翻訳). 2005年. 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ. 明石書店. ISBN:475032163X.

Evaluation Criteria) 30%学習プラン, 30%学習プランの実行, 40%宿題

Re-evaluation) なし

Message) ①再履修者は他のシラバスになるので、第1回目の授業までに連絡をして下さい。②この講義は坂田浩先生の「総科1基盤英語」(水, 1・2限)と同じ内容ですので、重ねて履修しないで下さい。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220826>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ Fukuda (English Support Room, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: Please send an e-mail for appointments.)